

■ 修士論文要旨

有機体論の視点に基づく中国エネルギー問題

—経済システムからエコロジーシステムへの途—

The Energy Problem of China Stand on An Organic Theoretical Point of View

— from the economic system to the ecological systematic approach —

神奈川大学大学院 経営学研究科
国際経営専攻 博士前期課程

閻 宏 宇

Hongyu Yan

■ キーワード

経済システム、エコロジーシステム、有機体論、共生、人間中心主義

79年以來の改革・開放路線で、中国経済は現在世界の中で最も活気のある状態にあると言われている。ヒトもカネもモノも、それから情報まで色々なものが集中してきている。中国経済の世界経済における役割が、今後、一段と大きくなっていくのは間違いないといわれている。

しかし同時に、多くの問題も抱えている。特に、近代化に伴う、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代を迎え、限りある資源は際限なく持続可能性を超えるエネルギー消費を中心に環境負荷を増大させる結果を招いた。この問題は中国のみならず、地球規模での高度成長の限界としてのエネルギーと環境問題が世界各国共通の課題でもある。

本稿では、ホワイトヘッドの「有機体論」世界観の視点から、つまり、相互に関連し合いながら生命を持続するという意味で、地球環境問題のエネルギー消費との関わりという問題意識のもとに、経済効率優先からエコロジーシステムの道筋作りを試みるのが目的である。

ここではまず、中国の経済発展につれ、エネ

ギー消費と地球環境問題との関わりという問題を取り上げ、「経済効率優先」の政策を批判的に検討した上で、エコロジーシステムを提唱する。

次に現実のデータを用いて中国のエネルギーの生産と消費を中心として分析し、環境悪化の実態を明らかにする。そして、「有機体論」の視点から、環境危機を体系的に解明し、それを克服するためのエコロジーシステムを検討するものである。

さらに、エコロジーシステムを構築する際に、中国古代伝統儒教・道教の中に含まれている環境思想を取り出し、自然との共生理念を模索しようと思う。

本稿の構成は以下に示す通りである。

「はじめ」では、中国経済に直面する発展と環境保護との対立問題を取り上げ、経済効率重視を批判する上、「有機体論」の視点から、それを克服するために、エコロジーシステムを提唱することである。

第2章「中国経済成長のエネルギー・環境問題」では、中国エネルギーの需給関係を解明する。現

実諸問題を把握する上に、問題の中核を探ろうと思う。

第3章「エコロジーシステムへの探求」では、社会発展のエコロジーシステムを提案する。そして、発展・持続問題について解明したい。

第4章「共生社会を目指す」では、中国古代儒教・道教の中で含まれている環境思想が中心として、発展モデルの理念を構築することで、持続発展の途を見出したい。